

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

| | | | | | | | |
|------|---|--------------|--|-----|--------|---------------------------|-------|
| 事業番号 | 08 04 19 | 中期総合計画主要施策番号 | 2-03 | 担当課 | 部・課 | 農政部 園芸畜産課 | |
| 事業名 | きのこ家畜を育てるソルガムプロジェクト推進事業 | | | | 内 線 | 3174 | |
| | | | | | E-mail | enchiku@pref.nagano.lg.jp | |
| 実施期間 | H22 ~ H26 | 根拠法令等 | きのこ家畜を育てるソルガムプロジェクト推進事業実施要領、エコフィード緊急増産対策事業実施要綱 | | | | |
| 実施方法 | 直接実施 ソルガムプロジェクト会議、ソルガム栽培農家、きのこ農家、畜産農家、飼料加工業者等 | | | | | 国庫・ 県単 | 県単独事業 |

| | | |
|--------|---------|--|
| 事業の概要等 | 目的(必要性) | きのこ農家の培地原料高騰や、畜産農家の飼料高騰を改善するため、ソルガムを核にした「資源循環型農業の構築」が必要。ソルガムをきのこ培地に利用した後、きのこ農家から排出される収穫後培地を飼料化して家畜に給与し、畜産農家から生産されるたい肥をソルガム畑に還元する。きのこ農家と畜産農家の経営安定及び飼料作物の生産拡大を図る。 |
| | 対象 | ソルガム栽培農家、きのこ農家、畜産農家、飼料加工会社など |
| | 目指すべき姿 | ソルガムをきのこ培地として利用した後、きのこ農家から排出される収穫後培地を飼料化して家畜に給与するとともに、畜産農家から生産される堆肥をソルガム栽培ほ場に還元することで「地域資源 循環型農業」の仕組みを構築する。 |
| | 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソルガムプロジェクト推進のためのプロジェクト会議(全体会議・きのこ分野技術検討会議・畜産分野技術検討会議)の開催 ・ソルガム栽培講習会の開催 ・きのこ培地に適したソルガム品種の検討 ・ソルガム培地を用いたえのきたけ栽培試験等現地での調査研究の実施 ・培地飼料の成分分析、消化試験、嗜好性調査等の実施 |

| | | | | | | |
|-------|-------------------------------------|-----------|--------|--------|----------|---------------------------------|
| 事業コスト | 区分 | 単位 | 22年度 | 23年度 | 24年度(当初) | 23年度事業費の主な内訳 |
| | 最終予算額 (A) | 千円 | 1,004 | 1,000 | 1,000 | ・報償費 ソルガム栽培、きのこ栽培試験費 410千円 |
| | 決算額 (B) | 千円 | 1,001 | 907 | | ・需用費の内 ソルガム培地代 303千円 |
| | B(H24はA)のうち一般財源 | 千円 | 1 | 0 | 0 | ・役務費 原料などの成分や安全性分析費等 100千円 |
| | 概算人件費 | 従事する職員数 人 | 0.30 | 0.30 | 0.30 | (ふるさと農村活性化基金を活用) |
| | 概算事業費 (B(H24はA)+C) | 千円 | 3,496 | 3,384 | 3,477 | |
| 事業実績 | 成果指標・活動指標内容 | 単位 | 22年度 | 23年度 | 24年度(見込) | 左記以外のH23年度実績 |
| | ソルガムの試験栽培面積(活) | a | 107 | 123 | 200 | ・ソルガム栽培について、培地製造用のマニュアルが作成できた |
| | きのこ培地の製造試験量(活) | 本 | 42,000 | 48,000 | 60,000 | ・きのこ栽培では、エノキタケ以外にほんしめじ栽培にも挑戦できた |
| | 家畜への培地飼料供給実績(活) | 頭 | 18 | 24 | 50 | (効率指標 算出式) 事業費 / (ソルガム栽培面積a) |
| | <効率指標(単位当たりコスト等)> ソルガム栽培面積当たり事業費 | 千円/a(7~8) | 32.7 | 27.5 | 17.4 | |

| | | | |
|-------|--|--|-------------------|
| 事業の成果 | 事業の目標(H23) | 事業成果・評価 | 評価区分 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト会議による事業検討 6回 ・現地での実証研究 ソルガムの栽培実証 3ヶ所 ソルガム培地でのきのこ栽培実証 6釜 使用済みきのこ培地飼料の給与試験 1件 | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト会議を計画的に6回開いて事業を進めることができた ・ソルガム栽培は、3市町村で5団体が123aで実践、マニュアルも作成 ・きのこ栽培は、3戸の農家が実践され、ほぼ同等の収量が取れた ・培地飼料は、濃厚飼料等を混合することで嗜好性改善され実用性を確認 | b 期待どおり |

| | | | | | |
|-------|------------------|-------|--------|------|--|
| 事業の課題 | 区分 | 判定・説明 | | | |
| | 事業ニーズの変化 | 増加 | 横ばい | 減少 | 判定の説明 ・培地原料の開発需要がかなり強く実用化に向けた取組み必要 ・実用性の検証も含め生産と流通消費含め中立な立場での検証が必要である ・実践することで新たな問題や課題が発見され、一つづつ確実に解決していく工程を進めることが重要である |
| | 県の関与を見直す余地 | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | |
| | 事業改善(有効性・効率性)の余地 | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | |

| | | |
|-------|-------------------|---|
| 総合分析等 | 総合分析(今後の課題、取組方針等) | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト会議を計画的に開くことで、進捗管理とこの事業の方向性を示しながら進められている ・ソルガム栽培は、マニュアルも作成でき、今後栽培面積の増加と、原料輸送の手段に課題が残っている ・きのこ栽培は、ほぼ同等の収量取れるがさらに安定して収量が上がる技術が必要である ・培地飼料は、混合飼料とすることで飼料として利用ができる。流通の幅を広げる取組みも必要である |
| | 特記事項 | |